



# 令和7年度福岡県循環器病推進対策協議会

令和8年2月2日

## 福岡県循環器総合支援センター事業の活動報告 令和6（～7）年度



**NHO九州医療センター**  
**脳血管センター 脳血管・神経内科**  
**杉森 宏**

# 内容

- 脳卒中・心臓病等総合支援センターから循環器病総合支援センターへの流れ
- 患者相談 相談窓口 相談実績と就労支援相談開始
- 患者啓発と公開講座
- 患者向け資材 脳卒中連携ノートの改訂・配布（予定）とハートノート
- 医療従事者に対する講習、勉強会 就労支援、PSLS、
- 医療連携 PSC（一次脳卒中センター）・PSCコア施設会議
- SCPAを通じた各職種調査について 特に退院時服薬指導
- まとめと課題

# 脳卒中・心臓病等総合支援センター（R4～）のイメージ

脳卒中・心臓病等患者と家族に対して



- ・ 脳卒中・心臓病等の情報提供と啓発
- ・ 地域の医療機関の情報提供
- ・ セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介
- ・ 脳卒中・心臓病等の療養上の相談や介護相談
- ・ 就労・就学支援
- ・ 妊娠・出産の相談
- ・ 遺伝相談
- ・ 移行期医療における移行支援
- ・ 患者会の支援
- ・ 人生会議(Advance Care Planning;ACP) の支援

脳卒中・心臓病  
総合支援センター



地域の医療機関・介護福祉施設等に対して



- ・ 医療機関等情報支援システム(G-MIS)の整備  
地域の医療機関の医療機能と役割分担の明確化  
地域の医療機関の空床状況の情報共有と病床確保推進  
適切な医療機関への迅速な救急搬送の推進  
病状に応じた円滑な転院支援  
医療機関間横断的な一貫した治療や疾病管理の推進
- ・ 研修会や事例検討会の開催主催

地域社会に対して

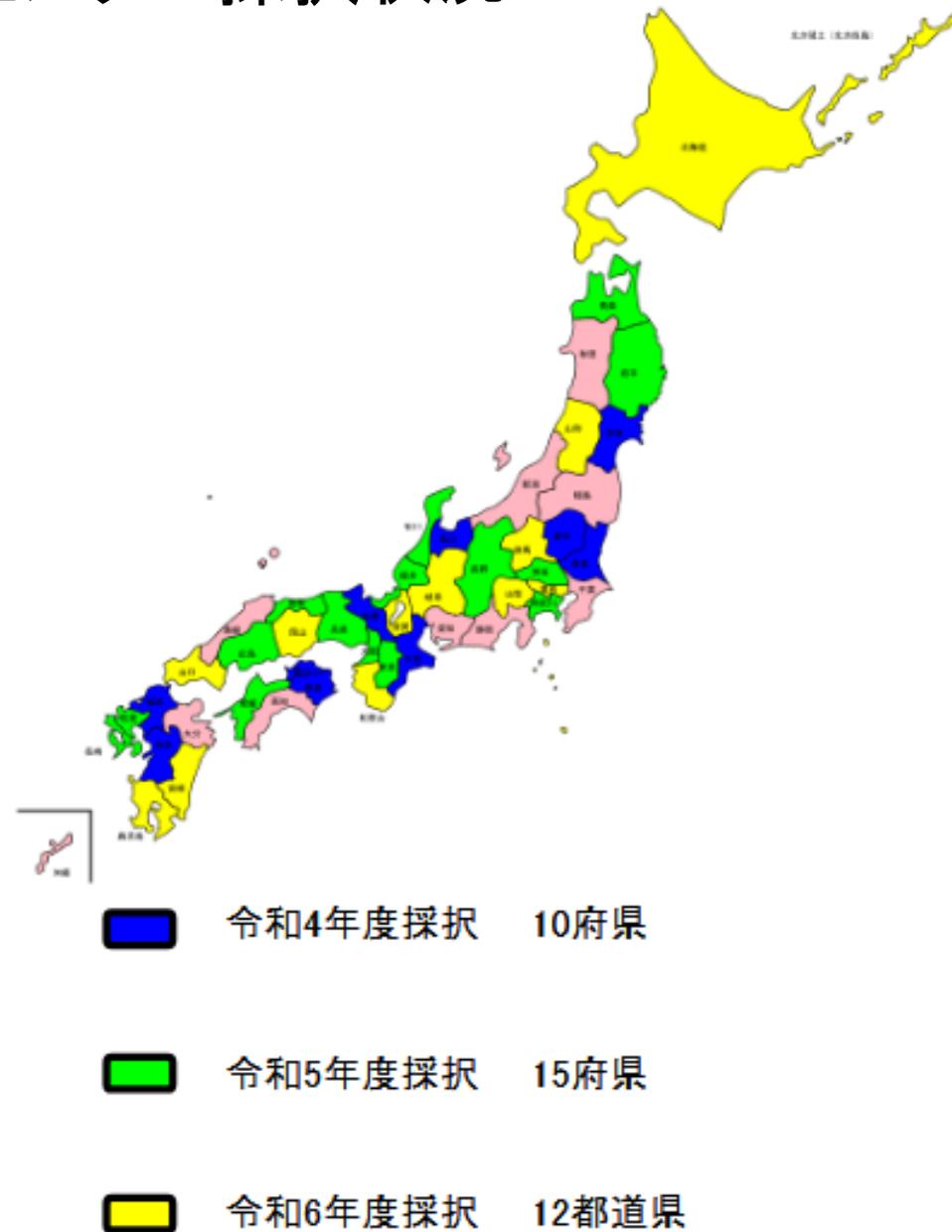


- ・ 市民公開講座等による脳卒中・心臓病等の予防・治療・管理に関する情報発信と啓発
- ・ 地域全体での脳卒中・心臓病等患者に対する医療・介護福祉提供体制の質の向上
- ・ 他地域やより広域での医療・介護福祉提供体制の質の向上

脳卒中・心臓病等患者の予後とQOLの改善、健康寿命の延伸

# 脳卒中・心臓病等総合支援センター採択状況

令和7年度採択10県



## 第2期

### 福岡県循環器病対策推進計画

循環器病（脳卒中・心臓病など）患者

をはじめ、誰もがより長く元気に

活躍できる社会の実現を目指して



「平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加」及び「循環器病の年齢調整死亡率の減少」



(1) 循環器病の予防や正しい知識の普及啓発

- ① 生活習慣病の発症、重症化予防の取組の強化
- ② 循環器病に関する正しい知識の普及啓発

(2) 保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実

- ① 救急搬送体制の整備
- ② 急性期から慢性期までの切れ目のない医療提供体制の構築
- ③ 在宅療養等が可能となる環境の整備
- ④ 小児期から成人期までの成育過程を通じた循環器病対策

(3) 多職種連携による循環器病患者への支援の充実

- ① 循環器病に関する適切な情報提供・相談支援
- ② 循環器病の後遺症のある人に対する支援
- ③ 治療と仕事の両立支援・就労支援

令和6年度



令和7年度



# 福岡県循環器病総合支援センター

	役職			
		14	地域医療連携室師長	
1	院長	15	地域医療連携室副師長	
2	副院長	16	栄養管理室長	
3	脳血管センター部長(実務統括者)	17	副薬剤部長	
4	循環器センター部長	18	理学療法士長	
5	心臓血管外科部長	19	医療社会事業専門員(心臓)	
6	救命救急部長	20	医療社会事業専門員(脳)	
7	リハビリテーション科部長	21	事務部長	
8	MCセンター長	22	経営企画室長	
9	循環器科医師	23	庶務班長	
10	看護部長	24	院外	
11	副看護部長	25		聖マリア病院
12	病棟師長(脳血管)	26		福岡療友会(患者会)
13	病棟師長(心臓病)		在宅医療	

## 福岡県循環器病(脳卒中・心臓病等) 総合支援センターのご案内

福岡県循環器病(脳卒中・心臓病等)総合支援センターでは心臓疾患や脳卒中疾患等の患者さんやご家族からのさまざまな相談を受け、解決策を一緒に考えていく支援を行っております。お気軽にご相談ください。



【相談窓口】独立行政法人 国立病院機構  
九州医療センター 地域医療連携室

【電話番号】092-836-5003

【対応時間】平日9:00~16:00(予約制)

※相談は無料です。守秘義務を厳守いたします。  
※1回15分程度

専門的な知識を有する、医師、看護師、薬剤師、  
管理栄養士、理学療法士、医療リハビリカ等  
が連携して相談に応じます。

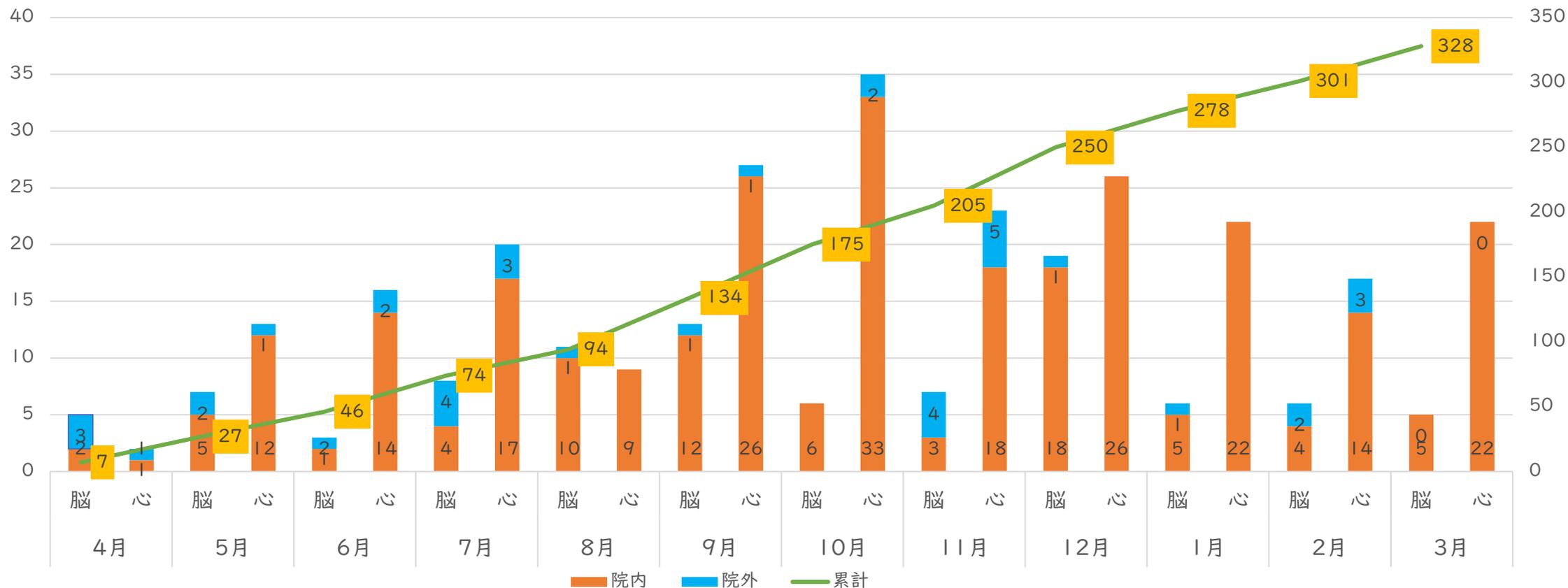


# 患者相談対応実績 R6年度

年間相談件数 328件

脳卒中	96件	院外	20件
心臓病	232件	院外	18件

月別 相談件数の推移

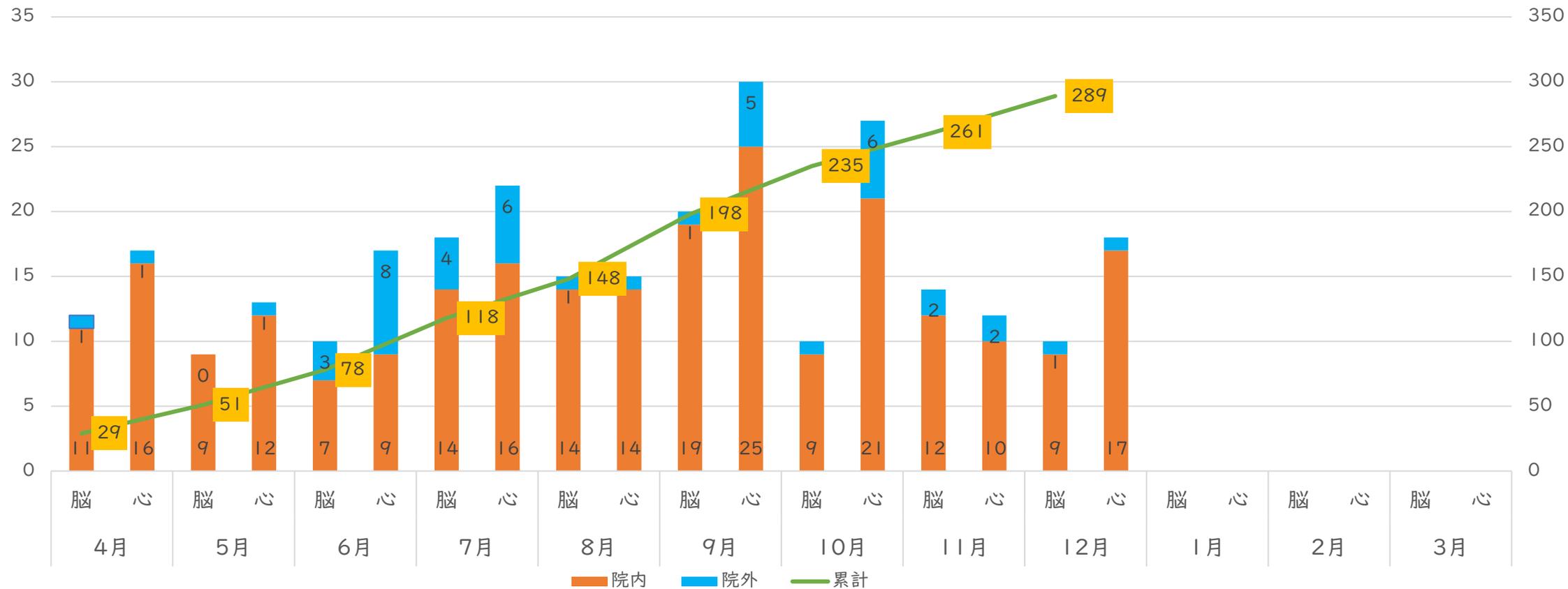


# 患者相談対応実績 R7年度

年間相談件数 289件

脳卒中	118件	院外	14件
心臓病	171件	院外	31件

月別 相談件数の推移



# R6年度 福岡県循環器病総合支援センター 相談実績

## 1. 相談件数(院内/院外)

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計		
	脳	心	脳	心	脳	心	脳	心	脳	心	脳	心	脳	心	脳	心	脳	心	脳	心	脳	心	脳	心	脳	心	計
院内	2	1	5	12	2	14	4	17	10	9	12	26	6	33	3	18	18	26	5	22	4	14	5	22	76	214	290
院外	3	1	2	1	1	2	4	3	1	0	1	1	0	2	4	5	1	0	1	0	2	3	0	0	20	18	38
計	5	2	7	13	3	16	8	20	11	9	13	27	6	35	7	23	19	26	6	22	6	17	5	22	96	232	328
合計	7		20		19		28		20		40		41		30		45		28		23		27		328		
累計	7		27		46		74		94		134		175		205		250		278		301		328				

## 2. 相談対応者

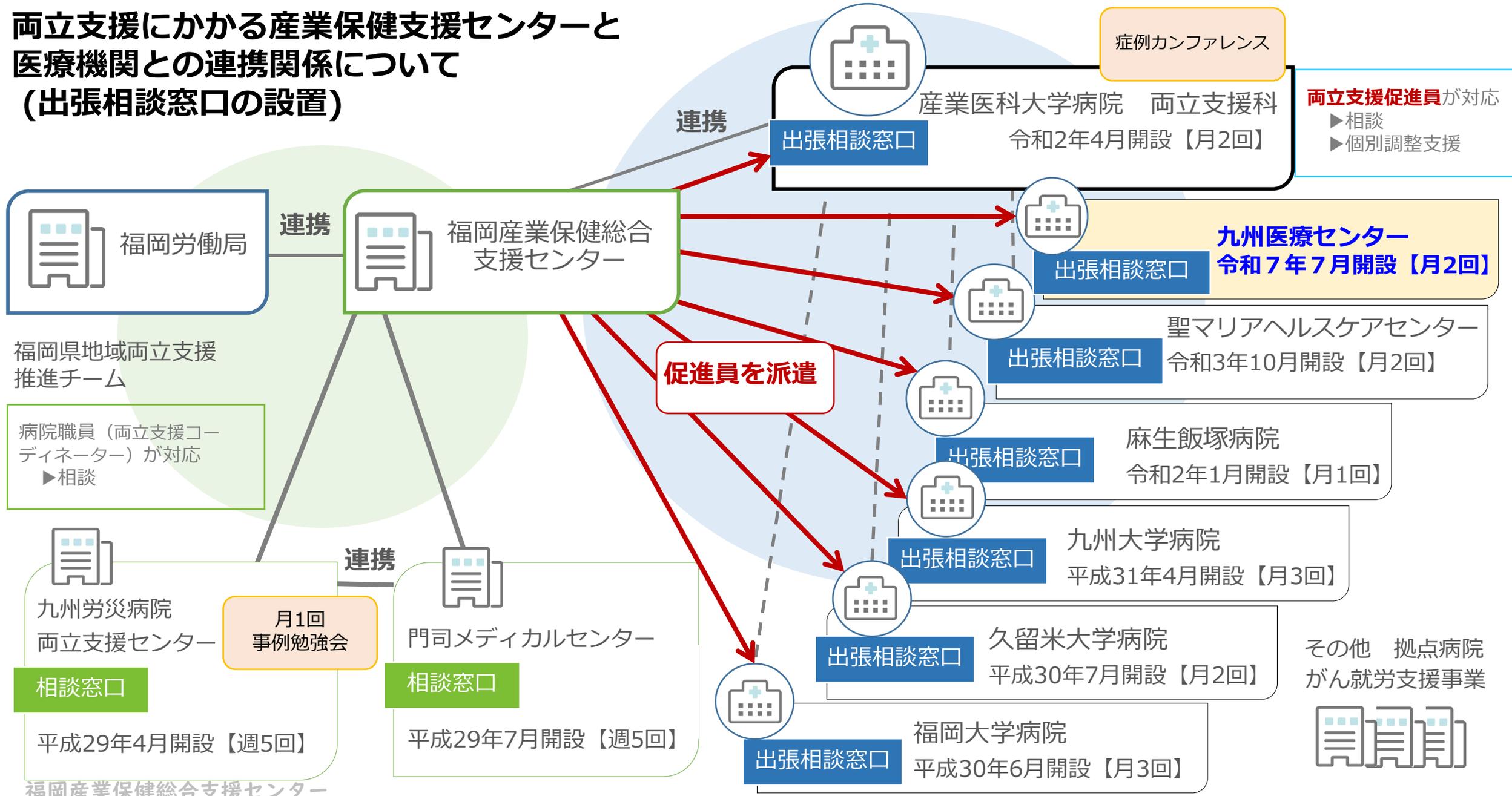
	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計		
	脳	心	脳	心	脳	心	脳	心	脳	心	脳	心	脳	心	脳	心	脳	心	脳	心	脳	心	脳	心	脳	心	計
医師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	3	4
看護師	3	0	5	12	2	15	5	19	10	9	12	23	5	30	5	21	15	25	5	21	5	14	3	21	75	210	285
リハビリスタッフ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
管理栄養士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
薬剤師	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
MSW	2	1	2	1	1	1	3	1	1	0	0	3	1	4	0	2	4	1	0	1	1	2	2	1	17	18	35
計	5	2	7	13	3	16	8	20	11	9	13	27	6	35	7	23	19	26	6	22	6	17	5	22	96	232	328
合計	7		20		19		28		20		40		41		30		45		28		23		27		328		

85%以上が看護師対応

# 相談機能の充実

令和7年9月現在

## 両立支援にかかる産業保健支援センターと医療機関との連携関係について (出張相談窓口の設置)



令和7年7月より  
社会保険労務士による

相談開始

(2回/月)

## 治療と仕事の両立支援 個別相談窓口のご案内

病気を治療しながら、仕事を続けていくことに不安を感じていませんか？

九州医療センターでは、入院中・外来通院中の皆様の、治療と仕事の両立を支援するための相談窓口を設置しております。

社会保険労務士による出張相談窓口

毎月 第2・4水曜日:13:30~16:30

おひとり1時間程度です



治療と仕事の両立が  
当たり前の社会に!



詳しくはこちらのチラシ  
(医療相談コーナーにあります)  
またはQRコードからご参照ください。



労働者健康安全機構ホームページ

<https://www.johas.go.jp/>

労働者健康安全機構 検索

ご相談は事前予約が必要です。  
1階医療相談コーナー(ATM前)  
にてお申し込みください。



# 貴賓館ライトアップ事業

ハートの日

R6年8月10日

R7年8月10日

健康ハートの日  
貴賓館ライトアップ



2025年8月10日(日) 19:00~翌朝4:00

場所: 旧福岡県公会堂貴賓館 (福岡市中央区西中洲6番29号)

8月10日は「健康ハートの日」です。  
暑い夏の一日に、毎日休みなく働いている心臓を思いやり、  
健康について考える「こころとからだの休日」を過ごしませんか。

福岡県循環器病総合支援センター

世界脳卒中デー

R6年10月29日

R7年10月29日

世界脳卒中デー  
ライトアップ



2025年10月29日(水) 19:00~翌朝4:00

場所: 旧福岡県公会堂貴賓館  
(福岡市中央区西中洲6番29号)

突然、  
顔の片側や腕の麻痺、  
呂律が回らないなどの症状がでたら、  
一刻も早く救急車を呼んでください!



福岡県循環器病総合支援センター

脈の日

R7年3月9日

R8年3月9日(予)

脈の日<sup>みゃくのひ</sup>3月9日に  
ライトアップしました

日時 2025年 3月9日(日)  
時間 午後7時 ~翌朝午前4時  
場所 旧福岡県公会堂貴賓館



脈を測って心房細動を早期発見

脳卒中や心不全の原因となる心房細動の  
早期発見、早期治療が大切です。  
自分で脈を図る検脈が有効です。

Youtube動画(日本脳卒中協会)  
「脈の自己チェック」の仕方は  
こちらのQRコードよりご視聴ください⇒



福岡県循環器病総合支援センター

## 目次

●はじめに	1
●福岡県の地域連携	2
●脳卒中予防十か条 2025	4
●脳卒中克服十か条	5
<b>【脳卒中とは】</b>	<b>6</b>
●脳出血	7
●くも膜下出血	8
●脳梗塞	10
●ACT-FAST	12
<b>【脳卒中リハビリテーションの流れ】</b>	<b>13</b>
●脳梗塞の危険因子について	14
<b>【脳卒中後に再入院が多い疾病】</b>	<b>15</b>
<b>【リハビリと在宅治療】</b>	<b>16</b>
<b>【自宅でできるリハビリ】</b>	<b>17</b>
●上肢のリハビリ運動	17
●下肢のリハビリ運動	20
<b>【家庭でケアしたいこと】</b>	<b>21</b>
●言語障害の後遺症がある場合	21
●摂食・嚥下障害の後遺症がある場合	22
<b>【在宅療養について】</b>	<b>23</b>
<b>【介護保険の利用について】</b>	<b>25</b>
<b>【自宅での生活を一時的にサポートする介護サービス】</b>	<b>26</b>
<b>【住み替えをする場合のサービス】</b>	<b>27</b>
<b>【あなたの記録】</b>	<b>28</b>
<b>【脳卒中で入院した方・ご家族にお伝えしたいこと】</b>	<b>34</b>

●目次の各見出しを **クリック** するとページに飛ぶことができます。

## 脳卒中予防十か条 2025

公益社団法人脳卒中協会の「脳卒中予防十か条」です。脳卒中の予防には生活習慣の改善が大切で脳卒中予防の具体的なリスク因子への対応が盛り込まれています。

### 1条 高血圧

『手始めに 高血圧から 治しましょう』  
定期的な血圧を測って血圧を管理しましょう。

### 2条 糖尿病

『糖尿病 放っておいたら 悔い残る』  
“重い合併症(失明・透析など)”にならないために血糖コントロールを行う必要があります。

### 3条 心房細動

『不整脈 見つかれば すぐ受診』  
脳梗塞では再発予防のために抗凝薬(血液を固まりにくくする薬)による治療が必要です。

### 4条 禁煙

『予防には タバコを止める 意思を持って』  
脳卒中後には禁煙が必須です。個人で禁煙する事が難しい場合は禁煙外来が受診できます。

### 5条 飲酒

『飲むならば なるべく少なく アルコール』  
肝臓が悪くなければ日本酒1合(ビールなら中瓶1本)程度の飲酒は可能です。

### 6条 脂質異常症 ※血液中に含まれる、コレステロールや中性脂肪が多すぎる状態

『高すぎる コレステロールも 見逃すな』  
LDLコレステロール(血液中の悪玉コレステロール)が高い場合はスタチンという薬剤で治療します。

### 7条 塩分制限

『お食事の 塩分・脂肪 控えめに』  
1日の塩分摂取量は高血圧がない場合で男性9g未満、女性7.5g未満、高血圧がある場合は6g未満です。

### 8条 運動

『体力に 合った運動 続けよう』  
1日30分程度の早歩き散歩が通常推奨されています。後遺症、麻痺のある方は担当医やリハビリスタッフに相談し、適切な運動を行きましょう。

### 9条 適正体重維持

『万病の 引き金になる 太り過ぎ』  
体重を適正に維持することも重要です。肥満の場合は3か月で3kg減量を目指して試してみてください。

### 10条 万が一の場合

『脳卒中 起きたらすぐに 病院へ』  
とにかくすぐに119番が病院へ



## ハートノート活用し、心不全再入院を予防

初回入院時に多職種でチーム医療介入

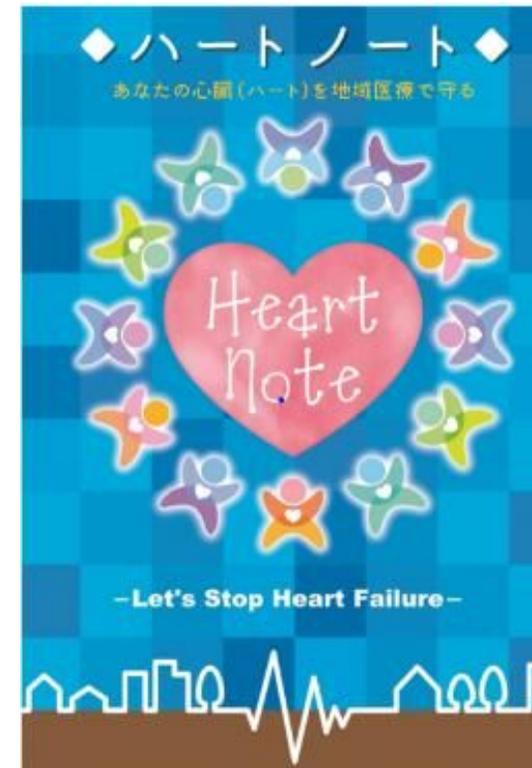
心不全の病態などを患者家族が理解できるように教育（患者参加型診療）

心不全療養指導士の活躍  
（日本循環器学会・日本心不全学会認定）



自分の心臓を理解し、うまく付き合い、セルフコントロール

心不全ポイントで予定外受診リスクの共通認識として使用



中根英策ほか：大阪心不全地域医療連携の会」  
（Osaka Stops Heart Failure (OSHEF) 資料

# 循環器セミナーのご案内

平素は当社職員がお世話になり誠にありがとうございます  
このたび、明治安田福岡マーケット開発部では、  
下記の日程で「循環器セミナー」を開催いたします  
多くの方のご参加を、心よりお待ちしております

参加費  
無料

日 時 2025年3月23日(日)  
10:30-12:00 (開場 10:00)

会場 明治安田ホール福岡  
〒810-0801 福岡県福岡市博多区中州5丁目6-20  
福岡市地下鉄空港線「中州川端」駅3番出口から徒歩約2分



内容 ・福岡県の現状  
・重症化した場合の症状  
・最新の治療方法  
・QOL向上のための方法 など

・循環器病とは  
・治療・生活費用面  
・予防方法と必要性

## 『健康測定会』同時開催!

測定会へご参加の皆さまには測定結果シートを  
差しあげます!

- 血管年齢測定会
- ベジチェック®測定会

このしく  
健康状態を  
チェック!



講師 井上 修二郎 先生



画像使用許可取得済

独立行政法人 国立病院機構  
九州医療センター  
循環器内科科長・循環器センター  
統括運営部長  
循環器病総合支援センター  
九州大学医学部卒業  
日本内科学会認定内科医  
日本循環器学会循環器専門医

### ※ご留意事項

- ・会場の都合上、定員は100名とさせていただきます  
(定員になり次第お申込みを締め切らせていただきますので、お早めにお申込みください)
- ・ご来場には公共交通機関をご利用ください
- ・申込締切は2025年3月19日(水)までとさせていただきます。別途参加申込票に必要事項を記入のうえ、担当者にお渡しください

明治安田生命保険相互会社

【担当者】

福岡マーケット開発部  
〒810-0004  
福岡市中央区渡辺通3-6-15 TT天神南ビル3階  
TEL:092-720-5071 2025年2月



## 第75回 聖マリア医学会学術集会 市民公開講座



日時 / 2025年12月5日 (金)  
17:00~18:00 (受付開始16:30~)

参加無料・  
事前申込不要

会場 / 聖マリア研究センター 井手一郎ホール  
久留米市津福本町422 聖マリア病院敷地内

## 「寒さに負けない新しい脳卒中対策」

座長 森岡 基浩 先生 (久留米大学脳神経外科教授 /  
日本脳卒中協会福岡県支部 副支部長)

講演 1 「脳卒中に対する血管内治療について」  
高橋 研二 先生 (聖マリア病院 脳卒中循環器病センター長)

講演 2 「脳卒中と認知症 ものわすれ外来について」  
松下 知永 先生 (聖マリア病院 脳神経内科診療部長)

講演 3 「脳卒中患者のリハビリテーションについて」  
加藤 聡 先生  
(聖マリアヘルスケアセンター リハビリテーション室 主任)

講演 4 「日本脳卒中協会の活動と脳卒中予防十か条2025への修正について」  
岡田 靖 先生 (聖マリア病院 安全・感染・Q I本部本部長 /  
日本脳卒中協会福岡県支部 支部長)

\* 脳卒中看護認定看護師による 相談コーナー

生活や食事の  
ことなどお気軽  
に相談下さい

主催/社会福祉法人 聖マリア病院、聖マリアヘルスケアセンター、

公益社団法人 日本脳卒中協会福岡県支部

会場/ 第74回 聖マリア医学会学術集会会場(聖マリア教育・研修センター 聖徳院内)

〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422 TEL0942-35-3322(内線2746)E-mail: pgr@st-mary-med.or.jp  
大会会長/ 谷口 雅彦 (聖マリア病院 院長)

後援/ 久留米市、久留米医師会、福岡県看護協会、福岡県循環器病総合支援センター

## 脳卒中ピアサポートの会

# 脳卒中発症後のリハビリを続けて 復帰へ！ 語り合いましょう

令和6年10月11日

### 【プログラム】

開会の御挨拶 福岡県循環器病総合支援センター実務統括  
九州医療センター副院長 岡田 靖

#### 第1部 ミニレクチャー

1. 『脳卒中回復を早めるため まず知ろう』  
～マヒ・お薬・リハビリテーションのなぜ～ (20分)  
公益社団法人日本脳卒中協会専務理事 川勝 弘之様
2. 体験談「自分を信じぬく」～ リハビリを続けて～ (15分)  
日本脳卒中協会スピーカーズバンク・福岡市在住 松永 知子様

#### 第2部 サロン

脳卒中を経験された方やそのご家族の方の交流の場です。  
グループに分かれて、それぞれの境遇や悩みを自由に語り合い、情報交換  
の中から生活に活かせる知恵やヒントを共有しましょう。

開会の御挨拶

# 脳卒中後遺症患者の就労支援に関する ワークショップ

令和6年9月27日

<日 時> 2024年9月27日(金) 13:30~16:30  
<場 所> 福岡県中小企業振興センター 4階 401号室

司会 NH0九州医療センター脳血管センター部長 杉森 宏

開会の挨拶 福岡県循環器病総合支援センター実務統括

NH0九州医療センター副院長 岡田 靖

1. 基調講演(30分) 産業医科大学リハビリテーション医学教授 佐伯 寛

2. 産保センターの両立支援に関わる活動紹介(15分)

福岡産業保健総合支援センター労働衛生専門職 三谷 梨紗

3. 事例検討ワークショップ(120分:休憩を含む)

\* 脳卒中後遺症がある方の事例を基にグループワークを行う予定です。

ファシリテーター 中国労災病院治療就労両立支援センター長 豊田 章宏

4. 総括 福岡県保健医療介護部健康増進課課長 猪股 祐子

2024/9/27



# 心臓病患者の就労支援に関する ワークショップ

令和7年9月26日

福岡県中小企業振興センター 4階 401号室

## 【プログラム】

- |                              |                              |                 |
|------------------------------|------------------------------|-----------------|
| 司会                           | NHO九州医療センター 循環器センター部長        | 井上 修二郎          |
| 開会の挨拶                        | 福岡県保健医療介護部健康増進課 課長           | 町田 由紀子          |
| 1. 基調講演(30分)                 | 産業医科大学 不整脈先端治療学 教授           | 荻ノ沢 泰司          |
| 2. 産保センターの両立支援に関わる活動紹介 (15分) |                              |                 |
|                              | 福岡産業保健総合支援センター               | 市川 富美子          |
| 3. 事例検討ワークショップ (120分：休憩を含む)  |                              |                 |
|                              | * 心臓病患者の事例を基にグループワークを行う予定です。 |                 |
|                              | ファシリテーター                     | 荻原中央病院 顧問       |
|                              |                              | 産業医科大学 元学長 尾辻 豊 |
| 4. 総括                        | NHO九州医療センター 循環器病総合支援センター     | 杉森 宏            |

第11回 よかよかネットワークの会

循環器病患者の地域支援体制づくりにおける  
心不全療養指導士の役割  
～急性期から生活期へ多職種でどうつなぐ～

令和7年8月8日

【プログラム】

司会：九州医療センター副院長 中島 寅彦

心臓血管ハイケアセンター看護師長 松田 陽平

1. 開会の挨拶（5分） 九州医療センター院長 岩崎 浩己
2. 「心不全連携における多職種介入について」（10分） 循環器内科科長 井上 修二郎
3. 「心不全療養指導士である社会福祉士だからできる取り組み」（10分）  
地域医療連携室MSW 二宮 隆史
4. 「心不全患者を多職種と地域で支える取り組み」・意見交換（50分）  
心臓血管ハイケアセンター看護師 渡邊 美和  
ファシリテーター：循環器内科医師 高橋 甚彌
5. 閉会の挨拶（5分） 九州医療センター副院長 中島 寅彦

心不全増悪に日頃の体重管理で気付ける！  
～早期介入のために訪問診療において必要なコト～

令和7年12月9日

1. 開会の挨拶（5分）九州医療センター 病院長 岩崎 浩己
2. 特別講演（40分）  
座長 九州医療センター循環器内科 井上 修二郎  
演者 医療法人竹谷クリニック理事長 竹谷 哲 先生  
大阪心不全地域医療連携の会代表幹事  
「心不全診療における「患者さんを支える多角的アプローチとは」  
～大阪心不全地域医療連携の会の取り組みについて～
3. パネルディスカッション（20分）  
ファシリテーター 九州医療センター 循環器内科 高橋 甚彌  
症例提示 九州医療センター 循環器病棟看護師 近藤 咲希  
ディスカッサント 九州医療センター医療ソーシャルワーカー 二宮 隆史  
久留米大学病院 循環器病棟看護師 中島 菜穂子  
メディケア訪看リハビリステーション福岡博多 清野 辰哉  
九州医療センター 循環器内科 目野 恭平
4. 閉会の挨拶（5分）福岡県保健医療介護部 健康増進課 参事 畑農 文

第12回 よかよかネットワークの会  
急性期病院から地域生活に戻るための医療連携の強化  
～脳卒中再発予防に向けた服薬管理～

令和8年1月23日

## 【プログラム】

- 司会：九州 医療センター副院長 中島 寅彦  
脳血管ハイケアセンター看護師長 瀬戸さほり
1. 開会の挨拶(5分) 九州医療センター副院長 中島 寅彦
  2. 急性期病院で行う脳卒中患者の服薬管理～服薬継続にむけて～(15分)  
脳血管センター部長 杉森 宏
  3. 脳卒中患者への薬剤指導 急性期病院でのとりくみ(10分)  
5階西病棟担当薬剤師 江端 成美
  4. 脳卒中相談窓口対応の現状報告  
急性期病院における脳卒中患者の服薬管理の実際(10分)  
脳血管ハイケアセンター副看護師長 星野 瑠璃
  5. 在宅にむけた脳卒中患者の服薬管理の実際(10分)  
白十字リハビリテーション病院副院長 三浦 聖史
  7. 意見交換(35分)
  8. 閉会の挨拶(5分) 福岡県循環器病総合支援センター 実務統括 杉森 宏

# 救急隊員対象の講習

# 脳卒中病院前救護(PSLS)

## 第17回 令和6年11月15日(49名)

13:00~13:10

### 1. 開会のあいさつ

国立病院機構 九州医療センター 病院長 岩崎 浩己

13:10~14:20

### 2. 講演 司会 九州医療センター 臨床研究推進部長・脳血管センター部長 杉森 宏

①当院の診療体制と脳梗塞初期診療について <30分>

九州医療センター 脳血管・神経内科 森 興太

②血栓回収療法の適応となる脳主幹動脈閉塞患者のみかたと脳血管内治療

最近の話題 <20分>

九州医療センター 脳血管内治療科科長 徳永 聡

③脳血管障害に対する脳神経外科手術について <20分>

九州医療センター 脳神経外科医長 西村 中

14:20~14:35 <休憩>

14:35~15:05

### 3. PSLS 脳卒中の見方

九州大学病院 救命救急センター 生野 雄二

15:10~15:50

### 4. PSLS 実演と実習 (ACT-FAST, CPSS, 主幹動脈閉塞スケールなど)

九州大学病院 救命救急センター 生野 雄二、賣豆紀智美

九州医療センター脳血管・神経内科 森 興太

15:50~16:00

### 5. 総括と閉会のあいさつ

(公社) 日本脳卒中協会福岡県支部長

福岡県循環器病総合支援センター実務統括 岡田 靖

## 第18回 令和7年11月14日(79名)

13:00~13:10

### 1. 開会のあいさつ

国立病院機構 九州医療センター 副院長 中島 寅彦

13:10~14:20

### 2. 講演 司会 九州医療センター 臨床研究推進部長・脳血管センター部長 杉森 宏

①当院の救急診療体制と脳卒中について <10分>

九州医療センター 救命救急センター長 野田 英一郎

②当院の診療体制と脳梗塞初期診療について <30分>

九州医療センター 脳血管・神経内科 芝原 友也

③脳血管障害に対する外科的治療について <30分>

九州医療センター 脳神経外科医長 西村 中

14:20~14:35 <休憩>

14:35~15:05

### 3. PSLS 脳卒中の見方

九州大学病院 救命救急センター 生野 雄二

15:10~15:50

### 4. PSLS 実演と実習 (ACT-FAST, CPSS, 主幹動脈閉塞スケールなど)

九州大学病院 救命救急センター 生野 雄二、賣豆紀智美

九州医療センター脳血管・神経内科 芝原 友也

15:50~16:00

### 5. 総括と閉会のあいさつ

(公社) 日本脳卒中協会福岡県副支部長

福岡県循環器病総合支援センター実務統括 杉森 宏

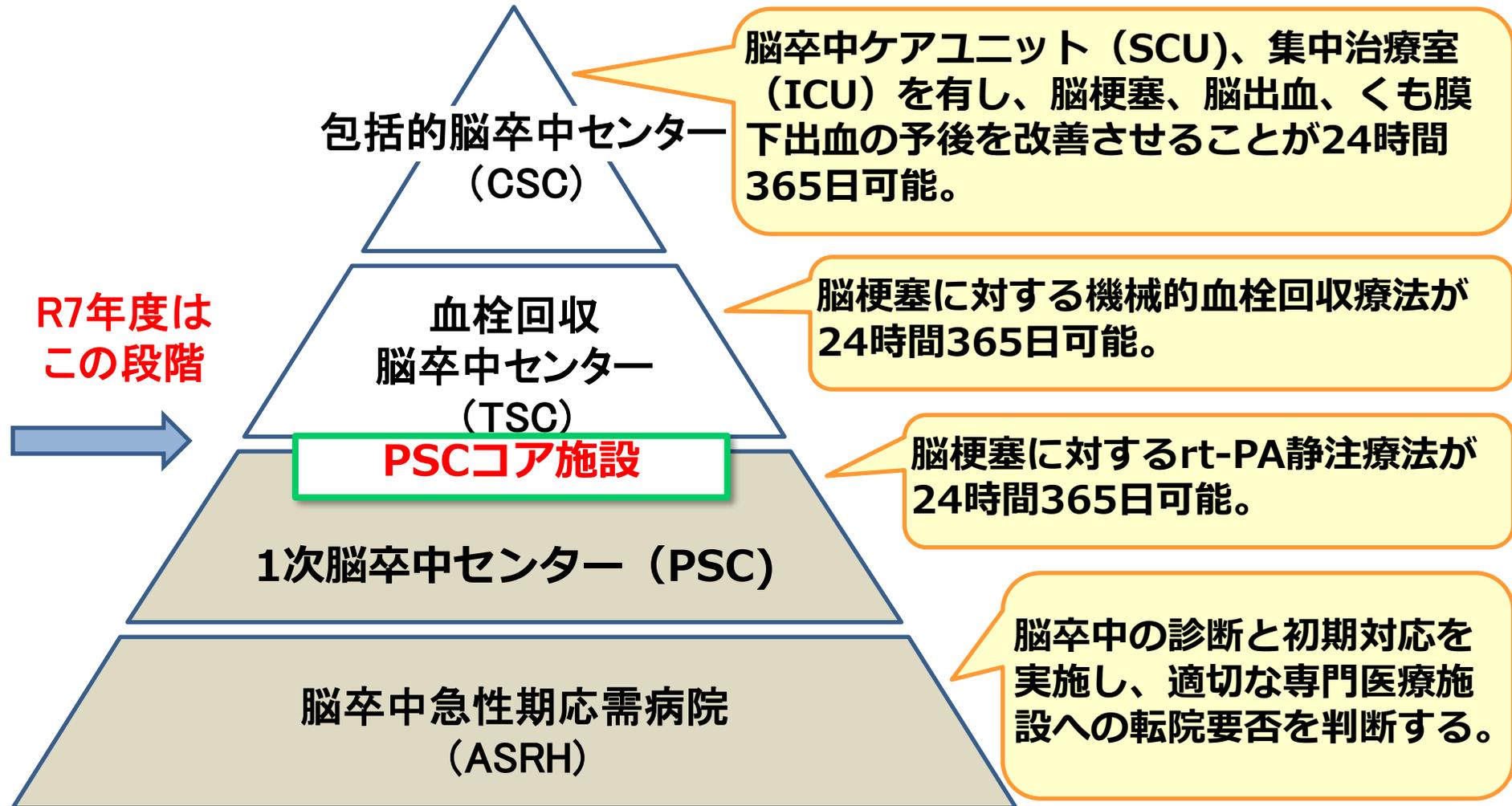
# PSLS 2025 11/14/2025



多施設・職種連携

# 脳卒中学会による脳卒中急性期治療ピラミッド

米国で構築された脳卒中センターの類型をもとに、学会主導で体制整備中でPSCコア施設まで指定済み。



# 福岡県一次脳卒中センター (PSC) 会議

議長 九州大学大学院医学研究院病態機能内科学教授 北園孝成先生・吾郷哲朗先生

令和6年8月

令和7年7月

## プログラム

- 1 開会の辞  
九州大学大学院医学研究院病態機能内科学 教授  
福岡県脳卒中・循環器病対策推進協議会 副会長 北園孝成 先生
- 2 日本脳卒中医療ケア従事者連合(SPCA-Japan)福岡県支部の立ち上げについて  
国立病院機構九州医療センター 副院長  
福岡県脳卒中・循環器病対策推進協議会 委員 岡田 靖 先生
- 3 治療と仕事の両立支援の7府県協力状況について  
国立病院機構九州医療センター 副院長  
福岡県脳卒中・循環器病対策推進協議会 委員 岡田 靖 先生
- 4 福岡県循環器総合支援センター事業
  - 1) 県健康増進課・産保センター合同脳卒中両立支援事例検討会  
国立病院機構九州医療センター 副院長  
福岡県脳卒中・循環器病対策推進協議会 委員 岡田 靖 先生
  - 2) 脳卒中サロンの立ち上げについて  
国立病院機構九州医療センター  
脳血管センター 部長 / 脳血管・神経内科 科長 杉森 宏 先生
  - 3) 救命救急士に対する脳卒中前救護(PSLS)講習について  
国立病院機構九州医療センター  
脳血管センター 部長 / 脳血管・神経内科 科長 杉森 宏 先生
- 5 各 PSC 施設の現況(アンケート調査の結果など)・意見交換など
- 6 閉会の辞  
久留米大学医学部脳神経外科 教授  
福岡県脳卒中・循環器病対策推進協議会 委員 森岡基浩 先生

## プログラム

- 1 開会の辞  
九州大学大学院医学研究院病態機能内科学 教授  
福岡県脳卒中・循環器病対策推進協議会 副会長 吾郷 哲朗 先生
- 2 日本脳卒中学会認定脳卒中コア施設の在り方と展望(仮)  
自治医科大学 脳神経内科 教授  
日本脳卒中学会理事長 藤本 茂 先生
- 3 脳卒中相談窓口連携会議のご報告  
国立病院機構九州医療センター  
脳血管センター 部長 / 脳血管・神経内科 科長 杉森 宏 先生
- 4 日本脳卒中医療ケア従事者連合(SPCA-Japan)福岡県支部の活動
  - 今年度の薬剤指導調査へのご協力のお願い  
同上 杉森 宏 先生
- 5 福岡県循環器総合支援センター事業
  - 県健康増進課・産保センター合同脳卒中両立支援事例検討会  
同上 杉森 宏 先生
- 6 各 PSC 施設の現況(アンケート調査の結果など)・意見交換など
- 7 抗アミロイドβ抗体薬投与下の超急性期脳梗塞治療事例報告  
同上 杉森 宏 先生
- 8 閉会の辞  
久留米大学医学部脳神経外科 教授  
福岡県脳卒中・循環器病対策推進協議会 委員 森岡 基浩 先生

# 働き方改革による脳卒中診療体制の変化について 1

1) 地域での輪番制の構築 . . . . . あり：0施設 なし：14施設

2) PSCの要件 . . . . . 維持している：14施設  
維持できなくなった：0施設

2023年度→2024年度 新規にPSCに認定 2施設
2023年度→2024年度 PSC施設でなくなった 2施設

3) PSCコアの要件 . . . . . 維持している：5施設  
維持できなくなった：1施設

2023年度のPSCコア6施設より回答 (福岡県内PSC コア施設 15施設)
--

・血管内治療の症例数が12例未満に減少

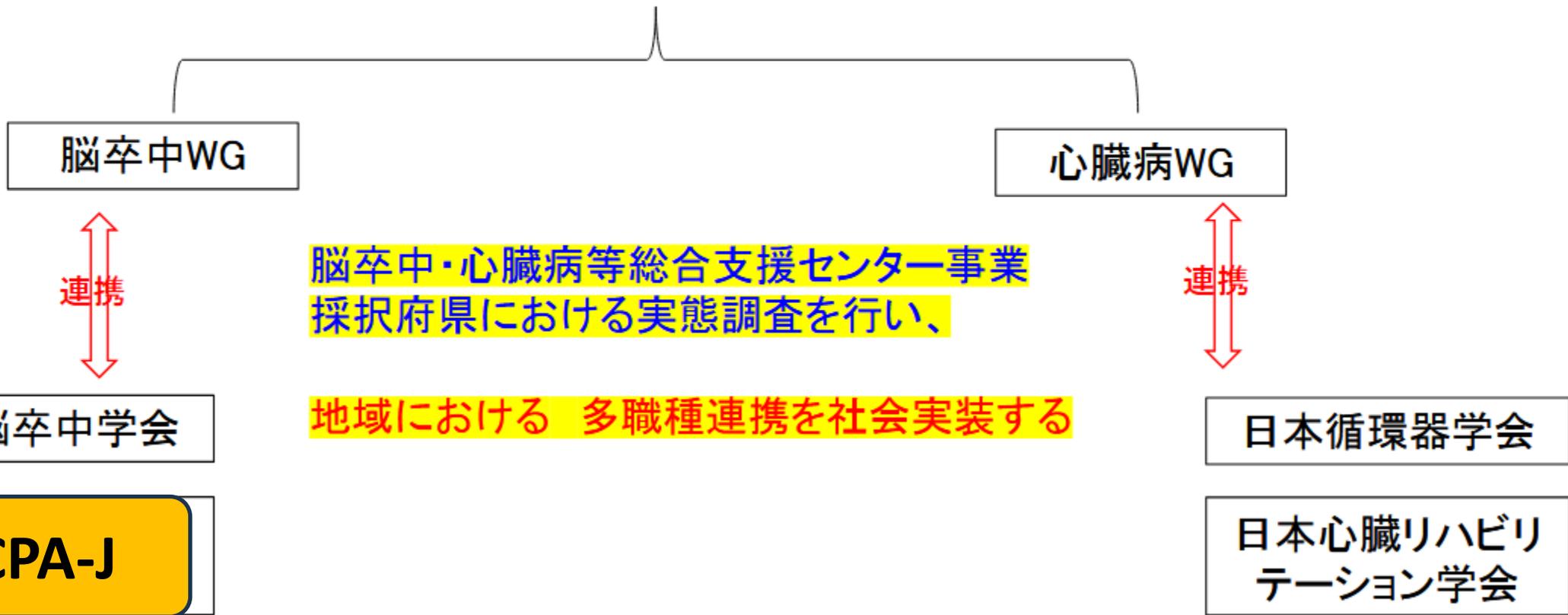
4) そのほかの診療体制の変化

1. 日勤帯の医師数が減り、一人当たりの業務量が増加し救急対応が難しくなっている。
2. 脳神経外科と内科(脳神経内科など)と一緒に脳卒中の当直・on callを担当するようにした。
3. 単独主治医制から複数主治医制やチーム制に変更し、時間外は当直・on callが完全に対応

令和5年度厚労科研費FA-1018

# 回復期以降の循環器病に対する多職種連携による患者支援体制の充実・普及に資する研究

令和5年度厚労科研費FA-1018 (主任研究者:宮本 享)  
回復期以降の循環器病に対する多職種連携による患者支援体制の充実・普及に資する研究



## SCPA-Japan 社員団体

- ・ 一般社団法人 日本脳卒中学会
- ・ 公益社団法人 日本脳卒中協会
- ・ **公益社団法人 日本看護協会(2025年7月15日加盟)**
- ・ 一般社団法人 日本脳神経看護学会
- ・ 日本ニューロサイエンス看護学会
- ・ 公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会
- ・ 一般社団法人日本介護支援専門員協会
- ・ 一般社団法人日本作業療法士協会
- ・ 公益社団法人日本理学療法士協会
- ・ 一般社団法人日本神経理学療法学会
- ・ 一般社団法人日本言語聴覚士協会
- ・ 公益社団法人日本薬剤師会
- ・ 一般社団法人日本病院薬剤師会
- ・ 公益社団法人 日本栄養士会
- ・ 公益社団法人 日本精神保健福祉士協会



一般社団法人日本脳卒中医療ケア従事者連合  
Stroke Care Professionals Association Japan (SCPA-Japan)

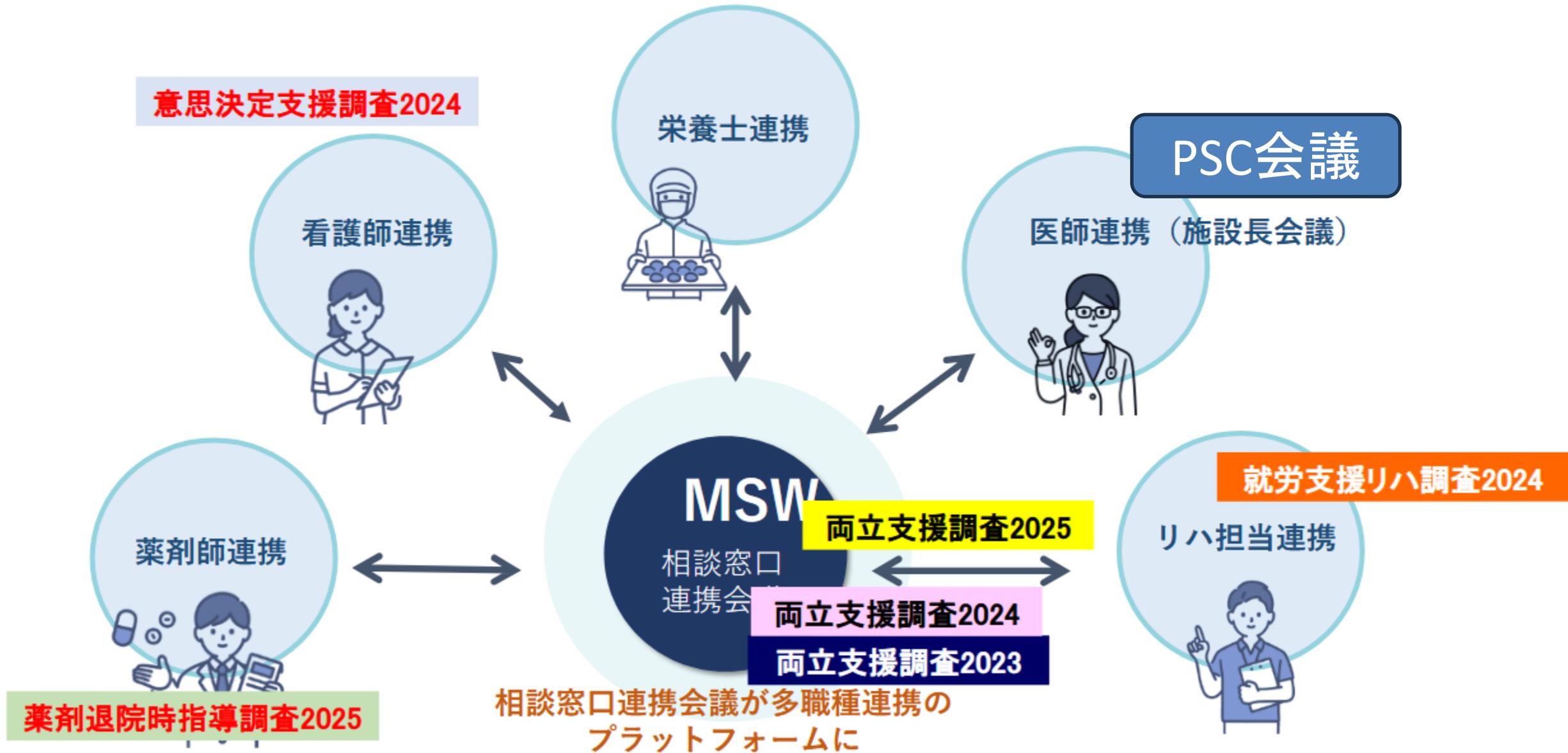
脳卒中の医療・ケアに従事する  
多職種の組織的連携を目的に  
2021年12月に設立(理事長 宮本享)

- ・ 脳卒中相談窓口マニュアルの共同執筆
- ・ 厚労科研 研究班調査の企画



**R6(2024)年3月  
SCPA-J福岡県支部を開設**

# 脳卒中相談窓口連携会議を軸とした各職種連携の展開と研究班調査



# 「回復期以降の循環器病に対する多職種連携による患者支援体制の充実・普及に資する研究 (23FA1801)」(23宮本班)

脳卒中SWGによる調査(薬剤師による退院時指導に関する調査)

## 薬剤退院時指導2025

### ● 調査対象

2025年11月に対象16府県のすべてのPSCおよび回復期リハビリテーション病院から  
直接自宅退院した脳卒中患者

### ● 調査内容

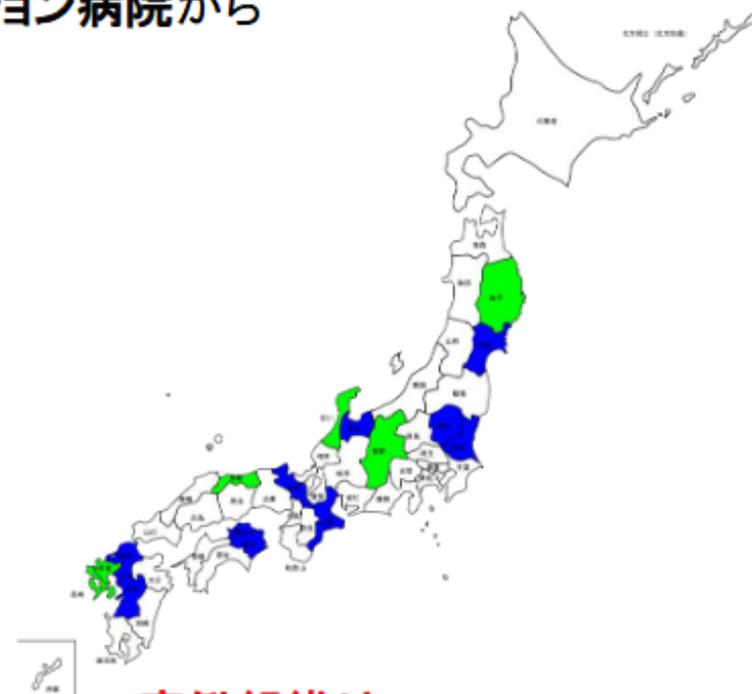
- ① ポリファーマシーの年齢別頻度
- ② 退院時薬剤指導に関する各種加算の実態と算定に関する障壁
  - ✓ 退院時薬剤情報管理指導料
  - ✓ 退院時薬剤情報連携加算
  - ✓ 薬剤総合評価調整加算
  - ✓ 薬剤調整加算

### ● 期待される効果

調査16府県における脳卒中連携看薬剤師会議の設立と活性化

■ 令和4年度採択

■ 令和5年度採択



実働組織は

脳卒中連携薬剤師会議

# みやぎ医療福祉情報ネットワークの紹介

## MMWIN(みやぎ医療福祉情報ネットワーク) 【Miyagi Medical and Welfare Information Network】

### MMWIN(エムエムウィン)について

#### サービス概要

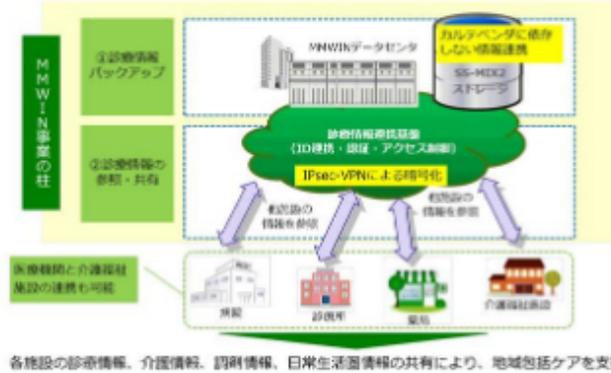


MMWIN(エムエムウィン)とは「良質な医療・介護が適切に提供される体制を確立し、県民の安心と信頼を確保するため」に宮城県や総務省・厚生労働省の復興補助金を活用し構築した情報ネットワークです。宮城県内の医療整備をすすめる、介護福祉事業発展のため、活用されることが期待されています。

宮城県内の医療機関、介護福祉施設や保険薬局などで扱われる、診療情報や介護福祉情報などを電子化し、遠隔保存・共有することで、安全で質の高い医療や介護福祉サービスを皆様にご提供するのためのシステムです。万一の災害・事故においても二度と情報を失うことなく医療介護福祉支援ができます。加入者さん中心の一貫した診療・介護の実現を支えます。

#### システム・機能概要

東日本大震災をきっかけに、万一の災害・事故においても二度と情報を失うことのないような診療情報のバックアップ体制と、結核施設との診療情報共有を目的とした情報ネットワークの構築を目指しています。



#### 脳卒中地域連携バスー臨床連携バスシステム

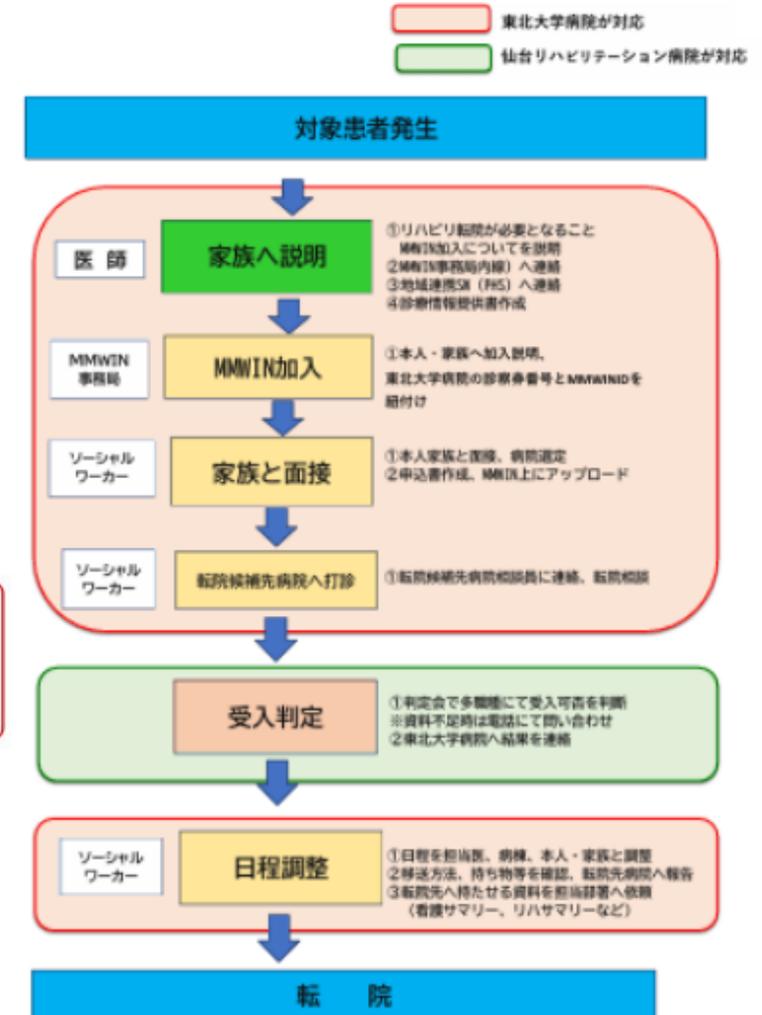
脳卒中地域連携バスは急性期施設から回復期・施設を対象に、より安全に診療情報の授受を行い、円滑な転院・退院を実現します。画像情報や検査値等の情報連携に加え、転院申込書や地域連携診療計画書といった各種帳票については臨床連携バスシステムを採用します。



#### 対応症例(2025年1月～3月31日まで)

- ・脳卒中 2例
- ・頭部外傷 1例

#### MMWINでの転院調整フロー



# まとめと今後の課題

- 厚労省のモデル事業に始まり、県の事業へとスムーズに移行できた。
  - 患者相談の幅を就労等まで広げ充実させてきた。対応者として看護師が圧倒的に多い。
  - 患者向け資材の作成配布や市民講座など啓発を行った。
  - 医療従事者に対する講習、勉強会を行った。
  - 多施設あるいは多職種での連携の枠組みをPSC会議やSCPA-Jを通じて模索した。
- 
- 医師には十分な情報を得るために話を聞く時間がない
  - 施設内外、職種を問わず連携のための情報共有プラットフォームが不足
  - エビデンスレベルの高い情報発信が不十分